

狩野川台風の記憶を つなぐ会

今だからこそ語り継ごう ～狩野川台風～



狩野川台風によって狩野川が氾濫し、一帯が浸水した田方平野

『狩野川台風の記憶をつなぐ会』

■ 設立趣旨

狩野川流域に未曾有の被害をもたらした狩野川台風(S33)の記憶を未来へ語り伝え、次世代へ引き継ぎ防災意識の向上に資することを目的に、当時の被害の大きさや恐ろしさを学び、被災者の体験を若者に伝え、当時の記録を集めるために設立しました。

～ 目指す目標 ～

狩野川台風の記憶を風化させず、次世代に引き継ぎ、防災意識の向上に資することを目的とする。

狩野川台風の記憶をつなぐ会

■ 集める

狩野川台風に関する『記憶』を収集します



■ 学ぶ

狩野川台風による災害の状況を知り、防災意識を高めてもらう取り組みを実施する。



■ 伝える

狩野川台風に関わる記憶を次世代に引き継ぐ取り組みを実施する。



【メンバー】

静岡県沼津土木事務所、沼津市、三島市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町
 狩野川漁業協同組合、狩野川倶楽部、狩野川資料館ガイドボランティア、水晶山の会、沼津河川国道事務所

■ 狩野川流域における防災・河川環境教育の取り組み

「狩野川台風の記憶をつなぐ会」は、地域から「狩野川台風の伝承」と「学校や地域での防災学習の継続」を期待されています。また、近年の大規模水害を受けて、流域住民の水防災意識の向上が全国的に求められています。このような背景から、平成28年2月より狩野川の沿川に住む小学生を対象とした、防災・河川環境教育の普及に向けた取り組みを行っています。

現在、「狩野川台風の記憶をつなぐ会」に「狩野川流域防災・河川環境教育検討会」を設置し、学校と教育委員会、静岡県地方気象台と連携して「狩野川に学ぶ～防災・河川環境教育実践ガイド」の制作を進めています。制作した実践ガイドは、平成29年度より、狩野川の沿川市町の小学校に展開していきます。

防災・河川環境教育実践ガイドの内容（イメージ）

● 板書計画のイメージ

児童に伝えたい事を明確にするため、「めあて」と授業の「まとめ」を記載。

めあて: かの川台風を通じて、水がひどいとは何か、水がひどいおそろしさを学びましょう。

大雨がふった後の川の様子
大雨がふった後の川の様子

川の水があふれると、私たちの生活にどのようなえいきょうがあるでしょう?

かんの川台風とはどのような水害でしょう?

【かの川台風のひがい】
かの川台風では橋が流されたり家が流されたり大きなひがいがた。かの川台風はとても大きな台風が上流で大きなひがいがた。

【生活へのえいきょう】
・買いものに行けない
・家の中で生活できない

まとめ: 大雨がふると川の水があふれて、わたしたちの生活にえいきょうがある。昔、かの川ではかの川台風があった。

児童のイメージが湧くよう、児童が住む地域の写真教材等を提示。

児童の発言を黒板に書き込む。

● 映像教材イメージ



● 授業用教材のイメージ



■ 狩野川台風の記憶をつなぐ会メンバーのコメント

伊豆市長 菊地 豊氏



● 将来を担う子ども達に記憶をつなげよう

母なる狩野川はこの地域に様々な恩恵を与えてくれますが、時として大きな被害をもたらします。狩野川台風では、熊坂地区をはじめ、流域に大きな被害をもたらしました。その後、静岡県、国により改修が行われ、治水安全度は向上しました。しかし、御嶽山の噴火など、自然災害は時として人の予測を上回る災害をもたらします。

狩野川流域の将来のため、この「狩野川台風の記憶をつなぐ会」の設立を契機に、将来を担う子どもたちに記憶を継承していきたいと思えます。

伊豆の国市長 小野 登志子氏



● 狩野川台風の記憶を忘れない取り組みを

劇団「DAN」の狩野川台風の寸劇、みなさんはご覧になられましたか。これはこの熊坂小学校が舞台になっています。ご覧になっていない方は、機会があるときにご覧になってください。

今から56年前、当時、私は中学2年生でした。この年は何度も豪雨があり、狩野川が狭くなった感じを受けました。その後は放水路建設も行われ、土地を提供していただいた住民の方々には心より感謝しています。毎年8月には、地元住民の皆さんが灯籠を狩野川に流し、慰霊祭を続けています。これからも地元住民の皆さんと一緒に狩野川台風の記憶を伝承していきたいと思えます。

函南町長 森 延彦氏



● 狩野川流域の未整備箇所の整備を

日本の文化は流域単位で形成されており、この地でも大きな災害が発生しています。また、日本全国で災害が発生している中、狩野川台風の記憶をつなげていかないといけないと感じています。このような中、東駿河湾環状道路に合わせて、道の駅、川の駅を整備する計画が上がっています。防災拠点として、川の駅を活用していければと思います。

また、狩野川はまだ未整備の箇所も存在します。函南町としても協力していきたいと思えます。

三島市長 豊岡 武士氏



● 災害に強い整備・対策を

狩野川台風の際、高校生だった私は復旧ボランティアに参加し、あまりの惨状に衝撃を受けました。伊豆地方は、昭和5年には北伊豆地震が起き、いつどのような災害が発生するかわかりません。また、三島市には大場川が流れており、狩野川の水位が上がると内水氾濫が発生する地でもあります。

台風の教訓を生かした狩野川の整備、支川の内水の対策を進めて頂くことをお願いするとともに、犠牲になられた方々へ心からご冥福をお祈りします。

清水町長 山本 博保氏



● 狩野川台風の記憶をつなぐ会の設立を防災を考える良い契機に

平成19年の秋に大雨で狩野川が危ないという知らせを受けました。消防団が待機していましたが、幸いに水位は下がり、決壊は免れました。しかし、狩野川放水路がなかったら、危なかったのではないかと感じています。放水路を建設して頂いた先見性、また口野漁港の漁業関係者の皆様の恩恵を受けて守られており、本当に感謝しています。

この「記憶をつなぐ会」は、安全安心の社会に向けて、地域一体となって防災について考える良い機会になるものと考えています。

沼津市長 栗原 裕康氏



●狩野川放水路の効果・治水事業への期待

沼津市は狩野川が中心市街地を流れており、普段は市民の憩いの場、にぎわいの場として活用していますが、ひとたび大雨が降ると最下流に位置するため大量の土砂やごみなどが流出します。狩野川台風による多大な被害を受けたことで、当初計画の2倍の水量を流すことになった狩野川放水路は沼津市など狩野川下流域にとって水害が大幅に減災されることになり、多大な恩恵をもたらしています。

安心・安全なまちづくりを行う上で、今後も治水事業を進めていただければと思う次第です。

狩野川資料館ガイドボランティア 谷口 隆太氏



●世の中の災害が一度にやってきたような恐ろしい情景

私は中学2年で狩野川台風に遭遇しました。交通事故と山崩れと大噴火と大地震、世の中の災い事がいっぺんに目の前で発生しているような恐ろしい音と情景の中、我が家の2階の床から40cmぐらいまで、狩野川の水が上がってきていました。消防団たちの必死の活動によって一本のロープを頼りに家から濁流の中を脱出しました。やっとの思いで堤防にたどり着き、助かったという興奮と今までの怖さがよみがえってきまして、そこで泣いて泣いて泣き通しました。そして、すぐ消防団の人がきれいな水で頭や顔、衣服を洗ってくれました。ふと気がつくと雨がほとんどやんでいました。雨が降っていないと思って空を見ると、白い雲が飛ぶようにびゅんびゅんとしているのが見えました。なぜ白く見えるかというと、その裏側にこんなまん丸い大きな満月に近い月が出ていたからです。それが雲の合間にぱっと見えた時点で、ああー、助かったんだなと思いました。そんなことで私は命を長らえてもらいました。

狩野川放水路、河川改修事業による治水安全度の向上 沼津河川国道事務所長 梅村 幸一郎氏

●経験を引き継ぎ、死者ゼロの継続を

狩野川台風では、死者・行方不明者が853名にも上りました。この台風を契機として、狩野川放水路の建設を加速し、また堤防整備や、砂防施設の整備を進めてきました。そして、狩野川放水路が完成して以降の50年間、狩野川流域では洪水による死者・行方不明者は出ておりません。これは施設整備だけでなく、流域の方々の水防意識の高さの賜物です。

国土交通省沼津河川国道事務所は、必要な施設の整備を進めるとともに、「狩野川台風の記憶をつなぐ会」の活動を盛り上げ、狩野川資料館等を活用して、狩野川台風の経験を引き継ぎ、死者ゼロの記録を守っていきたいと思います。



狩野川資料館



「狩野川資料館(伊豆長岡出張所敷地内)」では、狩野川台風の概要をまとめたビデオ上映、狩野川文庫資料の閲覧、資料館内のパネル等の見学ができます。

「狩野川放水路」では、狩野川放水路分流堰の見学、長岡トンネル内を見学できます。

<お問合せ先>

沼津河川国道事務所 伊豆長岡出張所
TEL:055-948-0302

狩野川台風文庫

狩野川台風の記憶をつなぐ会(事務局:沼津河川国道事務所)では、昭和33年に狩野川流域に未曾有の被害をもたらした「狩野川台風」の記憶を伝える、写真・印刷物・映像等を地域に募集し、多くの資料を収集しました。これらの貴重な資料は地域の多くの方々にご覧頂けるように、狩野川資料館に『狩野川台風文庫』を開設して、保管しています。



収集した文献の数々。当時小学生の文集、郷土誌、被災状況写真などがあります。

貴重な資料が保管されている、狩野川台風文庫の書棚。

